
落し物

アオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

落し物

【Nコード】

N 6 1 3 6 C

【作者名】

アオ

【あらすじ】

幼稚園からの友達だった明美^{あけみ}とお祭りに行ったつくし。帰り道で、大切なものを落としてしまったことに気付く…

（前書き）

ホント、下手でベタでしょーもないけど、短いんで目を通してくれたらうれしいです。

落し物

太陽は沈みかけていて、最後の足掻きを見せていた。

きつと、夕焼けがオレンジなのは太陽が頑張つて足掻いているからだ、と、勝手に思ったりする。

「今日のお祭り、楽しかったね！」

すぐ隣で、友達の明美^{あけみ}が、結局1匹も釣れくて、屋店のオジサンの情けで手に入れた金魚を眺めていた。3匹の汚い金魚を手に入れた私より、輝いているような1匹の金魚をもらった明美の不平を、やはり、女は可愛さね…と思う私だった。

「うん、けっこう楽しかった」と、礼儀的に笑みを浮かべて、私は言った。

「……ああっ」

私は、突然大声を出した。

「ど、どうしたの？つくし。いきなり大声出して」

ポケットに入れてたはずの、私の宝物がなくなっていた。

…きつと、お祭りの中で落としちゃったんだ……………

不思議そうにこちらを見る明美に、「ごめん！！先に帰ってて！！

！」と大声で言った。

「え、つくし？どうしたの？」

明美をおいて、私は探しに行った。

「ええー、どこにあるのよ」

地面を注意深く見ながら、探す。

まだお祭りの熱気は引いていない。立っているだけで、押しつぶされそうだ。

「……………」

さっきは明美がそばにいたから何ともなかったけど、一人がこんなに寂しいなんて…

泣きたくなる。

もう、見つからないかも……

もう太陽は疲れて、月が見える。祭りの熱気はいつの間にか無くなって、そして、人が少なくなってきた。

人がいなくなると探しやすいと思ったのに、今度は暗くなってきて、あたりが薄暗く、もつと心が寂しくなる。

疲れてくると、やる気もなくなってきた。

もう、いいや。

そう諦めようとした時……

「つくしー！ー！」

驚いて勢い良く振り向く。

「……………明美」

緊張の糸が、ぷつんと音をともなって切れた。眼から涙が止まらない。

こんなにも、明美って心強かったんだ…

「ごめんごめん！懐中電灯を探したら、遅くなっちゃった……………つくし？」

明美の前で泣いたことなんて、今までなかった。

泣いたら、明美に負けちゃう気がしたから……

「大丈夫？」

明美は真剣に心配している。

明美は笑みを作る。

…こんなの、勝てるわけなかったじゃん……

私の何万倍も、明美のほうが強かった。

「…うん、何でもない」

そういうと、明美は「じゃあ、一緒に探そう。きっと二人ならすぐ見つかるよ」

うん、とできるだけ元気に言った。

結局この日は、私の宝物は見つからなかった。

でも………

「明美！一緒に帰ろ！」

「うん！！」

ずっと失くしていた「宝物」は、見つかったみたいです。
本当に私が落としてたものは、これだったのかもしれないね。

（後書き）

この小説は、自分の大切な人を本当に愛しているか、そのことを伝えたくて書きました。

この小説を読んで、大切な人に一言いえるきっかけになるんなら、うれしい限りです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6136c/>

落し物

2011年1月27日08時14分発行